東京都がん対策推進協議会

第13回就労支援ワーキンググループ

会議録

令和7年2月4日
東京都保健医療局

(午後 6時00分 開会)

○田村医療連携・歯科担当課長 では、お待たせいたしました。ただいまより、東京都がん対策推進協議会第13回就労支援ワーキンググループを開会いたします。

医療政策部医療連携・歯科担当課長の田村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、ウェブ会議に当たりまして、委員の皆様にご挨拶をさせていただきます。

1点目は、議事録作成のため、必ずご所属とお名前をおっしゃってからご発言くださいますようお願いいたします。

2点目は、ご発言をいただくとき以外はマイクをミュートにさせていただきますようお願いいたします。

なお、本日の会議は、後日、資料及び議事録を公開させていただく予定でありますので、よろしくお願いいたします。

まず初めに、本日の会議資料でございますが、委員の皆様には事前にデータにて送付いたしてございます。

次第に記載のとおり、資料1から資料5までと、参考資料1から7までとなります。

次に、本日ご出席の委員のご紹介ですが、本来はご出席の皆様全員のご紹介をさせていただきたいところですが、時間も限られておりますので、資料2-2でのご紹介に代えさせていただきます。

なお、本日は委員の皆様全員にご出席いただいております。

ぜひ、皆様より忌憚のないご意見を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ここで、議事に入る前に、一つインフォメーションをさせていただければと思います。

本日、2月4日はワールドキャンサーデーでございます。

ワールドキャンサーデーは、ジュネーブにある国際対がん連合本部がイニシアチブをとり、世界全体が一体となって対がん運動に取り組むことを推進するため、2000年にパリの世界がんサミットで採択されたパリ憲章によって、毎年2月4日を記念日として定めたものでございます。

東京都庁に関しましては、この後、6時過ぎですけれども、この会議中になるんですけれども、本日ライトアップを予定してございます。

都庁に関しましては、毎日、プロジェクションマッピングを上映してございますので、このプロジェクションマッピングの上映時間を除いた時間帯につきまして、国際対がん連合のカラーでありますブルーとオレンジで点灯する予定としてございます。

もし見る機会がありましたら、本日、少し遅くまで、22時まで点灯してございますので、見ていただければと思うところでございます。

では、議事に入りたいと思います。

それでは、これ以降の進行につきましては、内田ワーキンググループ長にお願いいたします。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。虎の門病院の血液内科の内田といいます。

今日は、世界対がんデーということで、とても都庁のプロジェクションマッピングも見られない状況ではありますけれども、よろしく願いいたします。

今日は、まず議題の1ですが、令和6年度実施の事業についてのご説明がございました。では、事務局から、まずお願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 では、事務局よりご説明いたします。

資料3をご覧ください。

こちらは、令和6年度のがん患者の治療と仕事の両立支援事業の取組内容になります。各事業の実施内容についてご報告させていただきます。

初めに、がん診断前後の退職防止のための動画の制作及び広告配信についてでございます。

こちらは、前回ワーキンググループでも説明させていただきましたが、がんの疑いへの不安から冷静な判断が困難となり、退職・廃業を検討している都民に対しまして、必要な情報を効果的に届け、診断前及び診断直後の早期退職を防止することを目的として動画の作成、制作及び広告配信を行うものでございます。

動画については、もう既に完成しておりますので、まずはご覧いただきたいと思っております。

(動画視聴)

○田村医療連携・歯科担当課長 今回の動画の目的が診断前や診断直後の退職防止ということで、まずは治療と仕事を両立している人もたくさんいること、また不安な場合は診断前からでも「がん相談支援センター」で相談できることをコンパクトに伝える動画となっております。

現在、東京都公式YouTubeチャンネルや東京都がんポータルサイトにこの動画を掲載しておりまして、また今年1月10日よりYouTube広告としても配信しております。

配信の方法としましては、「がんかもしれない」という不安を抱える方、あるいは診断直後の方になるべく多く見ていただくため、がんに関連する用語やがんに関するチャンネルを視聴している方に絞って配信するとともに、健康関連の動画を視聴している方にも配信する形となっております。

2月9日までの1か月間の配信を予定しております。

また、広告配信以外にも、都保有の媒体において広報を実施しております。

具体的には、東京都公式LINEにて、健康・医療カテゴリで友だち登録されている方、約11万人の方にご登録いただいておりますが、それらの方へのプッシュ配信やLINEVOOM、Facebookへの掲載も行っております。

また、都庁舎のデジタルサイネージや渋谷スクランブル交差点にある楽天ビジョンにおいても放送を行いました。

そのほか、区市町村のがん対策主管課や都内がん診療連携拠点病院等にも周知し、動画の活用について依頼してございます。

実績としましては、1月30日時点でございますが、YouTubeの広告表示数としまして50万回となっております。

こちらの数字は、あくまでも動画視聴の最中に広告として表示された回数でございますので、広告の種類としてはスキップ可能な広告となっておりますので、そこから実際にスキップされずに最後まで見られた数としましては、15秒バージョンが3万8,978回、60秒バージョンが1万7,432回の合計5万6,410回となっております。

50万回の広告表示に対しまして5万6,410回の視聴ということですので、割合としては広告が表示された方のうち、1割強の方に最後まで見ていただいたという形になってございます。

一応、視聴数の目標としましては、2割程度を想定してございましたので、そこまではちょっと届いてございませんが、行政が配信する動画としては悪くない数字かなというふうにも聞いてございます。

本動画につきましては、後ほど、議事3の来年度の事業等についてでもご説明いたしますけれども、今年度の広告配信終了後に効果検証を行いまして、来年度も引き続き配信する予定でございます。

次に企業向けセミナーについてご説明いたします。

こちらが前回のワーキンググループにおいてご説明いたしましたが、都内企業向けに令和4年度から実施しているものです。

令和4年度及び5年度はオンラインのみでの開催でしたが、今年度はオンラインと対面のハイブリッド形式で開催してございます。

内容は産業医、社会保険労務士、両立支援に取り組む企業、がん経験者による講演と出演者によるパネルディスカッションを行ったほか、セミナー会場に相談ブースを設置しまして、東京都社会保険労務士会様のご協力をいただき、個別相談も実施してございます。

参考資料の2-1、2-2をご覧ください。

こちらが今年度実施した各セミナーのチラシになってございます。

1回目は、昨年11月26日に中野区にて開催しまして、北里大学医学部衛生学講師の武藤剛先生、東京都社会保険労務士会の吉川和子先生、企業の取組事例としましてセントラルヘリコプターサービスの中野さん、がん経験者としましてNPO法人がんチャレンジャーの花木裕介さんにご講演いただきました。

第2回目は、今年1月21日に立川市にて開催しまして、武藤先生と吉川先生は前回

に引き続きまして。企業の取組事例としましては、コロプラスト株式会社の久保田真由美さん、また、がん経験者であり、企業の人事担当として両立支援にも取り組まれているサッポロビール株式会社の村本高史さんにご講演をいただきました。

資料3にお戻りください。

実績としましては、第1回目の参加者がオンライン129名、会場22名で合計151名、第2回目がオンラインの162名、会場21名の合計183名となっております。

また、個別相談会の相談件数につきましては、1回目が4件、2回目が2件となっております。

参考資料2-3をご覧ください。

第1回目のセミナーのアンケート結果ですけれども、参加者の属性としましては、企業の人事、労務担当者が約3割、次いで、企業における産業保健スタッフ、がんを経験された本人またはご家族、医療機関の職員などとなっております。

セミナーの満足度につきましては、9割以上の参加者から満足またはやや満足とご回答をいただいています。

また、同じく9割以上の参加者が「セミナーに期待した内容は得られた」、または「少し得られた」という結果となっております。

資料3にお戻りください。

参考に、令和5年度及び4年度の参加者数を記載してございます。少しずつ数が増えてございまして、今年度はオンラインでの参加希望が当初の定員であります150名を超える申込みがございまして、定員を200名に増やして受け付け、それを上回るような申込みがあったということです。会場参加を案内したり、参加をお断りしたような状況でもございました。

今年度の参加者数からも分かりますが、やはり会場参加よりも圧倒的にオンラインのほうが需要があるということで、相談会につきましても会場参加が少ない中で、多数の企業からの相談という結果にはならなかったというところでございます。

今年度の状況を鑑みまして、来年度のセミナーの内容につきましては、後ほど議事の3におきまして、皆様から意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、スライド4ページにお進みください。

がん治療と就労の両立支援に向けた支援事業（大学提案事業）についてです。

本事業は、大学研究者による事業提案制度により実施しているものになります。

都では、都内大学研究者から研究成果や研究課題を踏まえた事業提案を募集しており、研究者・大学と連携・協働して事業を創出する制度を実施してございます。

その中で、令和4年度に東京医科歯科大学、現在の東京科学大学ですけれども…から提案がございました、がん治療と就労の両立に向けた支援事業が都民投票によりまして

採択され、令和5年度から7年度までの3か年の事業として実施してございます。

事業内容としましては、頭頸部がん患者は、腫瘍の位置により「見る」「聞く」「話す」「食べる」ことに困難を抱えることが多く、見かけの変化を隠すことは難しいという特殊性を持ち、社会生活との両立が難しいということから、頭頸部がん患者の治療と就労の両立を多角的に支援する体制モデルを構築することを目的としてございます。

主な取組としましては、(1)から(3)に記載のとおりでして、治療と就労の両立を念頭に置いた医療技術の開発、治療と就労の両立のために患者が求める支援や課題抽出、また病院内でのリラックススペース、ワークスペースの検討及び設置ということで、現在進めているところになります。

今年度の実施内容としましては、これらに加えまして、(1)、(2)の取組の現時点における成果を普及するためのシンポジウムを12月に開催し、また、3月に2回目を開催する予定でございます。

参考資料3-1をご覧ください。

こちらが、昨年(令和5年)の12月21日に頭頸部がん治療に関わる医療関係者を対象に実施したシンポジウムのチラシでございます。

東京科学大学からの研究成果の報告のほか、頭頸部がん患者の治療と仕事の両立に関する講演、医療機関の取組についての講演、パネルディスカッションを行いましてオンラインと会場を合わせまして89名の方に参加していただきました。

参考資料3-2をご覧ください。

こちらが、これから3月1日に開催予定の一般の方向けのシンポジウムのチラシになってございます。

東京科学大学からのアンケート分析結果の報告と両者の取組についての講演、頭頸部がん患者、がん患者団体による講演のほか、パネルディスカッションを行う予定としてございます。

令和6年度の実施事業に関する事務局からの説明は、以上になります。

○内田ワーキンググループ長 ご説明ありがとうございました。

令和6年度の実施事業についてのご説明でした。これらの内容について、ご質問、ご意見を伺っていきたくと思いますが、ご意見のある方はTeamsの挙手ボタンによる挙手でお伝えください。

あと、来年度の内容については、議事の3でお伺いするというので、今年度の実施内容についてのご質問、ご意見をお願いいたします。

これは、さっき行政の動画にしてはという表現ありましたが、行政の動画としてはどのぐらいの数字なのでしょう。10%ぐらいの閲覧率があつてとおっしゃっていましたが、10%ですかね。行政はもっと低いのが通常なんですね。

○田村医療連携・歯科担当課長 いわゆる東京動画などに挙がっているほかの動画の再生回数を見ますと、もっと少ない動画が結構多くて、意外とタレントを使っているもそれ

ほど伸びていない動画もあります。

その中で見ますと、東京都の回数としましては、かなり数としては上がっているほうだと広報の担当からのコメントとしてはいただいているところになります。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

よろしいですか。

企業向けセミナーもすごい数が増えていて、コロナで来られなかった時期からすると1年間で100名ぐらいしか来ていなかった、今年はだから330名ぐらい来られたということですよ。素晴らしいなと思って聞いておりました。

よろしいですかね。

ほかに、ご意見、ご質問ないようでしたら、次の議題に進ませていただきます。

続いて、次の議題は、東京都がんポータルサイトにおける就労支援コンテンツについての説明をお願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 では、事務局よりご説明いたします。

資料4の2ページ目をご覧ください。

東京都がんポータルサイトのリニューアルにつきましては、前回のワーキンググループでもご説明いたしておりますけれども、今月末のリニューアルに向けまして、現在、最終調整を進めているところになってございます。

参考資料5の9ページを見ていただければと思います。

こちらが、昨年12月16日に開催しました、がんとの共生部会の資料になってございます。

サイト全体の構成につきましては、がんとの共生部会において議論しておりまして、こちらは第1回のユーザーテストを終えた時点での方向性について記載してございます。

これらの内容を踏まえまして、リニューアル作業を現在進めておりまして、2月中旬に予定をしております第2回目のユーザーテストにおいて、改めて協議会の委員の皆様にはご確認いただく予定でございます。

当ワーキンググループの委員の皆様にもご参加いただきたいというふうに考えてございますので、ご協力いただきたいと思います。

資料4に戻っていただいて、スライド3ページ目をご覧ください。

こちらは、がんポータルサイトリニューアルに関する前回ワーキンググループでの主なご意見と対応を記載してございます。

まずは、サイト全体に関するご意見でございます。

サイト全体で重要度・優先度が高いもの、動画など見やすいものを大きく掲載し、フォントもできる限り大きくして見やすいサイトにすべきというご意見をいただいております。

サイト全体につきましては、がんとの共生部会において議論してきましたが、対応としましては、重要度・優先度が高いコンテンツはトップページに分かりやすく表示する

予定でございます。

参考資料6をご覧ください。

こちらがリニューアル後のがんポータルサイトのトップページの案でございます。

現時点のもので、今後、変わっていく可能性がありますので、今の時点の参考ではございますが、トップページにおいてよく閲覧されているものや重要度の高いものをコンテンツとして目立たせて表示させておりました、必要な情報にたどり着きやすい構成となっているかなというふうに思います。

治療と仕事の両立に関しましても、「支援・助成制度を知りたい」のカテゴリーの中で、働く世代への支援について（治療と仕事の両立）という形で掲載予定としてございます。

主なコンテンツの下にはイベント情報などお知らせを掲載し、一番下にはサイトマップを載せまして、コンテンツが一覧できる形としてございます。

資料4にお戻りください。

次のご意見としましては、がん診療連携拠点病院などだけではなく、がんを診断する医療機関にポータルサイトのQRコードを掲載したチラシを配布するのはいかがかというご意見をいただいております。

こちらにつきましては、サイトの認知度向上のためにQRコード入りのカード、チラシを作成しまして、拠点病院だけではなく、都内の医療機関に配布する予定でございます。

三つ目に、千葉、埼玉、神奈川など、周辺の自治体の情報について掲載やどこの病院が何曜日にどんな相談を実施しているかの一覧があれば参考になるのではとのご意見をいただきました。

こちらにつきましては、他県の情報については、優先度がほかと比べて高くないというところがございますので、今回のリニューアルでの掲載は見送らせていただきますけれども、全体のバランスを考慮しながら、今後、検討していきたいと考えてございます。

また、都内の病院情報につきましては、一覧という形ではございませんけれども、各病院のページで詳細情報を掲載する予定でございますので、そこでの確認は可能となる形となっております。

次のページへお進みください。

就労支援コンテンツについての主なご意見になります。

企業向けと患者・家族向けにつきまして、それぞれ両立支援の制度について掲載するとよい、というご意見をいただきました。

こちらにつきましては、治療と仕事の両立に関する相談窓口について、患者・家族向けと事業者向けについて、それぞれまとめたコンテンツについて、前回のワーキンググループの後に新たに掲載いたしてございます。

参考資料7-1をご覧ください。

こちらが既に掲載済みの患者・家族向けの窓口一覧のコンテンツとなっております。

患者・家族向けの相談窓口としまして、がん相談支援センター、東京都産業保健総合支援センター、地域産業保健総合支援センター、ハローワークの長期療養者向けの窓口について紹介してございます。

参考資料7-2につきましては、こちらは事業者向けの内容となっております、窓口としては重複しているのがほとんどでございますけれども、文言等を多少変えて掲載してございます。

資料4にお戻りください。

ほかに、産業保健総合支援センターの周知や令和6年3月に刷新された「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」の掲載、ハローワークの長期療養者相談窓口の掲載についてのご意見をいただきました。これについては、それぞれ新しいコンテンツとして掲載するほか、先ほどご紹介しました相談窓口のコンテンツの中で掲載させていただいてございます。

次のスライドにお進みください。

こちらがリニューアル後のがんポータルサイトにおける就労支援コンテンツの全体像を記載してございます。

ただ、コンテンツとして羅列するだけではなく、まず、前段としまして「がんになっても治療をしながら仕事を続けている人も増えている」こと、「必ずしもすぐに仕事をやめる必要はない」ことなど、治療と仕事の両立に関して伝えたい内容を簡潔に記載した上で、患者さん向けの情報、企業向けの情報、その他の両立支援に役立つ情報という三つのカテゴリーに分けて掲載を考えてございます。

既存のコンテンツにつきましては、前回のワーキンググループでご説明しましたとおり、基本的には継続して掲載し、区分で新規となっている項目が新たなコンテンツとなります。

星印のついてある新規につきましては、先ほど今、ご紹介させていただいた、前回ワーキンググループ以降に新たに追加したコンテンツですので、新規というふうに記載されてございますが、現在もう既にポータルサイト上には掲載されている内容となっております。

厚生労働省のポータルサイト「治療と仕事の両立支援ナビ」でしたり、国立がん研究センターの「がん情報サービス」の「働く世代の方へ」のページにつきましては、直接リンクを貼って紹介する形としております。

そのほかの新規コンテンツ案についてご紹介させていただきます。次にお進みください。

患者さん向けの情報としまして、新たに追加予定の「がん患者・がん経験者の就職活動の支援について」の掲載案となっております。

国立がん研究センターの「就職活動応援ガイド」、がん情報サービスの「がんと仕事

のQ & A」、厚生労働省の長期療養者就職支援事業、ノバルティスファーマの「小児・AYA世代がん経験者のための就活講座」について、それぞれリンクを貼って紹介する形を考えてございます。

次のスライドへ進みください。

その他、両立支援に役立つ情報としまして、新たに追加予定の「東京都産業保健総合支援センターの取組紹介」の掲載案でございます。具体的な内容につきましては、リンクを貼って紹介する形を考えてございます。

以上が、「東京都がんポータルサイト」における就労支援コンテンツについての説明になります。

今月末のリニューアルに向けては、今、ご説明した内容の掲載の準備を進めてございますけれども、リニューアル後も新たなコンテンツの追加など、掲載内容の変更はもちろん可能ですので、今、ご説明した内容以外に追加したほうがよい内容がございましたら、ご意見をいただきたいと思っております。

また、サイト全体についてのご意見でも構いませんので、よろしくお願ひいたします。事務局から、以上になります。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

事務局から、東京都がんポータルサイトのリニューアルに関する全体の状況と前回のワーキンググループでのご意見を踏まえたリニューアル後の就労支援コンテンツの全体像、新規コンテンツの内容について説明がありました。

この内容についてご意見、ご質問があればお願ひいたします。

事務局からもありましたけれども、説明があった内容以外に追加したほうがよい内容などありましたら、ぜひご意見をいただければと思っております。

その他、サイト全体に対してのご意見でも構いませんので、お願ひいたします。

それぞれのお立場から感じになること、お時間10分ぐらい、10分以上ありますね、たっぷり取ってあります。時間どおりじゃなくてもいいんですが、もちろんありましたらどうぞ。

どうぞ、染谷委員、お願ひします。

○染谷委員 東京都社労士会の染谷と申します。よろしくお願ひいたします。

ホームページの資料6について拝見させていただきましたが、サイトのトップ画面は、「がんについて知りたい」という画面が来て、下に移動していくと、お知らせ、イベント情報が入るといような形になるイメージでよろしいでしょうか。

○田村医療連携・歯科担当課長 トップページに関しては、今お示ししているこの形で、考えてございます。

○染谷委員 ありがとうございます。

私もよくがんポータルサイトを拝見しますが、一番拝見するのはお知らせとイベント情報である傾向があります。おそらくご覧いただく方の多くも、イベントやセミナー情

報をお知りになりたいと思いご覧になる傾向が多いように感じています。

一般的なホームページでは、トップ画面の一番上にお知らせ情報があり、そこから下に下がって、それぞれ見たい内容を閲覧するイメージが多いのではないかと思います。

できれば、お知らせやイベント情報を上にしたほうがアクセス数が増えるのではないかと感じた次第でございます。

以上です。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

どうぞ、事務局、何かコメントございますか。

○田村医療連携・歯科担当課長 この構成につきましては、一応現在のがんポータルサイトのアクセス数の分析等を行ってございまして、そちらの中で比較的アクセスされるというものとしては、セカンドオピニオンであったりとか、緩和ケア病棟であったりとか、そういったところの情報を知りたいというところが多く見られていたというところ、アクセスが多かったというところ、そういった情報を上に持ってきたほうがいいのではないかというところから、お知らせやイベント情報よりも上に持ってきているという経緯がございます。ただ、今ご意見いただきましたので、またそこは、ほかの方のご意見等も踏まえまして検討させていただければと思います。

○染谷委員 ありがとうございます。単なる意見ということなので、あまり気になさらずに、というところではありますが、よろしく願いいたします。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

そのほか、ご意見ございますか。

いろんなほかの外部サイトとリンクを貼っていらっしゃいますけど、これはそれぞれに連絡を取られて許諾を取ってというプロセスをもう経て、もうそれは終了しているという状況なんですね。

○田村医療連携・歯科担当課長 そうですね。今のコンテンツにつきましては、そこら辺は終了している状況です。

○内田ワーキンググループ長 どうぞ、新明委員、お願いします。

○新明委員 すみません。日本福祉大学の新明です。よろしくお願いします。音声、聞こえていますでしょうか。

○内田ワーキンググループ長 聞こえています。

○新明委員 私も参考資料6のトップ画面のところでちょっと伺いたいのが、トップ画面1枚目の四つ目のコンテンツで支援助成制度を知りたいというところ、多分これは社会制度の案内とかだと思っただけです。ここの部分で、恐らくこれは助成制度を知りたいの下に四つぐらいカテゴリーが分かれていると思っただけです。働く世代の支援についてとか、東京都若年がん助成事業とか、アピアランスとか、在宅医療とかで分かれていると思っただけです。この中で、私もイメージがついていないので申し訳ないんですけど、当事者向けの制度案内と企業向けの制度案内が混在しているイメージになるのか、完全

に当事者向けのものだけになるのか、入るとどのような状況になるのかをちょっと知りたかったのと、もし分かれていないようだったら、研究とかでやっぱり中小企業さんとかの声を聞くとポータルサイトの中の企業向けの制度の案内とかが固まっているとすごく見やすい。例えば、東京産保の相談事業だったりとか、そういうのにすぐプロセスとしてアクセスできると分かりやすいというような話があったので、ここのところのもし情報が少し決まっていたら教えていただきたいなと思いました。

以上です。

- 田村医療連携・歯科担当課長 今の支援制度、助成制度なんですけれども、働く世代の支援について以外の三つにつきましては、患者さんに対して直接助成するような制度になってございます。

また、働く世代の支援につきましては、こちらのここをクリックしていただくと、リニューアル後につきましては、先ほど資料4でお示ししました、がんポータルサイト内の就労支援に関するコンテンツのリニューアル後ということで、患者さん向けの情報と企業向けの情報、あとその他、両立支援に役立つ情報というような三つのカテゴリーでお示ししようというふうに考えているところです。

よろしいでしょうか。

- 新明委員 分かりました。

じゃあまた、リニューアル後、私もコンテンツに入ってみようと思いますので、もしまたそこで何かあれば、お伝えさせていただければなと思います。ありがとうございます。

- 内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

そのほかございませんでしょうか。

先ほど、大賀委員、挙手されておられませんでしたでしょうか。

- 大賀委員 ありがとうございます。ご質問が同じところでしたので大丈夫でございます。ありがとうございます。

- 内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

よろしいですか。

鳥居委員、よろしくをお願いします。

- 鳥居委員 東京都医師会の鳥居です。よろしくお願いたします。

ポータルサイトの中身は、またいろいろと出来上がってから入ってみて試してみたいと思うんですけれども、それを普及啓発するところなんですけれども、啓発用のチラシとか、カードとか、コードをつけたりとか、そういうのは大きい病院で配るというのと、もう一つは開業医のところでも配るということはできますので、ご協力できればと思います。

それから、あと、今までのポータルサイトというのは来るのを待っていたんですけれども、今回プッシュ型のいろいろLINEとか、いろんなところに入り込んでいくのをちょっと我々SNSを見ていて邪魔ではあるんですけれども、わりとプッシュ型

というのは有効ではないかと思いましたが、今までと違う試みで非常に感心させていただきました。よろしく願いいたします。

以上です。

○内田ワーキンググループ長 コメントありがとうございました。

そのほかよろしいでしょうか。

これは、先ほどつくっていた動画は、このサイトには載る予定はないのでしょうか。

○田村医療連携・歯科担当課長 動画についてもポータルサイトに載せる予定でやっております。もう既に今のポータルサイトにも載ってはいますので。

○内田ワーキンググループ長 今のポータルサイトは動画があるのは分かるんですけど、今のトップページの中には動画が。

○田村医療連携・歯科担当課長 トップページの中には確かにないですけども。

○内田ワーキンググループ長 ないですね。

○田村医療連携・歯科担当課長 はい。

○内田ワーキンググループ長 動画を見て下のほうに出てくるんですか。

○田村医療連携・歯科担当課長 クリックをすると、そこの下で見られるようなイメージではあります。

○内田ワーキンググループ長 そうなんですね。何かキャッチーなので、最初にぱっと見て、動画をここで見たらもっと入っていかないかなと思ったんですけど。ただのコメントでございました。

ほかよろしいでしょうか。

竹井委員、よろしく願いします。

○竹井委員 聖路加病院の竹井です。

このポータルサイトの新しいバージョンを見まして、今までのものよりも非常に整理されていて、アクセスしやすいイメージを持ちました。

先ほど統計を取っていらして、アクセス数としては、ぜひその順番として何が多いかというのを具体的に知りたいなというふうに思った次第です。

実は、今1枚目のポータルサイトですけれども、がんについてというのは、もともとのポータルサイトにもあったんですが、そもそも結構その辺というのは皆さんある程度知っていらしたりだとかするのかなと思うと、やはり情報を取りに行く方のニーズとしては相談をしたいというところが逆に一番上でもいいのかなというふうに思ったところでございます。

○内田ワーキンググループ長 なるほど。ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○田村医療連携・歯科担当課長 今回の資料ではないんですけども、この後。

○内田ワーキンググループ長 今、出ていました。出ました。

○田村医療連携・歯科担当課長 今、出します。

これがアクセス数のトップ上位から並べた数になってございまして、1番目がセカンドオピニオンについて、次が緩和ケア病棟を有する医療機関、その後はいわゆるポータルサイトのトップページであったりとか、緩和ケア病棟施設という感じで、病院の、そういった情報に関するところが多く上に来ているような状況にはなっております。

○内田ワーキンググループ長 やっぱ情報を取りに来る人のほうが多いということですね。「がんって何？」が9番目ということですね。

○竹井委員 意外と「がんって何？」も上位にいるんだなというのが分かりました。

○内田ワーキンググループ長 なるほど。

○竹井委員 でも先ほどの動画に関しても一番最初のところに自動で流れるぐらいでもいいのかなとちょっと私も思った次第でした。

○内田ワーキンググループ長 そうですね。ありがとうございます。

伊藤委員、挙手をいただいています。お願いします。

○伊藤委員 乳がんの患者会「VOL-Net」の伊藤でございます。

本当はかなり見やすいサイトが変わっているので、すごく期待しております。

今のお話の続きなんですけれども、患者側からすると何を取りに行っているのかということが実はすごく大事なのと、通常、私も今まではがんのこととか、病気のこととかというのを知りたいんだったらがん情報サービスにまずは行ってくださいという案内を個人的にはというか、会でお越しになった方にはお話しするのが通常です。やっぱり本当に病気に関しての確実性であったりとか、ボリュームとしては上下をつけるわけではないんですけれども、やっぱりがん情報サービスが一番間違いないなという感覚があって、そうすると患者が何を取りに行くかということ、自分がどこの病院にかかったらいいんだろう、自分がどこにセカンドオピニオンにいけるんだろう、どこに在宅の相談をしたらいいんだろうという、自分が動くということを考えての情報収集だと思いますし、東京都がんポータルサイトですから、がんの治療について知りたいという感覚よりは、東京に住んでいる私、東京に行ける私がどこに行ったらこの治療を受けられるのかとか、東京にいてどんな治療が受けられるのかとかという。

求めている情報というのは物すごくばくつとしたものではなくて、私が行けるものがどこにあるの、私のほしいものはどこにあるのという感覚の探し方のほうが大きいような気がしていて、だとしたら大きな変更は難しいかもしれないんですけれども、そういう観点、例えばどこに行ったらこういう情報があるんだよという、探している人がどこに行ったらいいのかなという、例えばがんの相談、がんについて東京都でできる相談みたいなのちょっとした東京都ならではというものが少し打ち出せるとより東京都でつくっているという価値がもう少し押し出せるのかな。そこで集まってきた情報だったりとかアクセス情報は、次のアップデートにつなげやすくなるのではないかなというふうに思いました。

以上です。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

もう少しローカル色じゃないですけど、特徴として出してもいいんじゃないかというご意見ですね。

遠藤委員、手が挙がっています。よろしくをお願いします。

○遠藤委員 よろしくをお願いします。東京産業医学情報センターの遠藤でございます。

私は、だんだん東京都のがんポータルサイトが少しずつブラッシュアップされているなどすごい驚いているというか、すごいなと思っているんですけども。

今年はちょっと難しいと思うんですけど、今後やっぱり入り口を患者さんと医療機関のがん相の方とかと、あとはやっぱり企業の方で、何か三つぐらい分けちゃったほうがいいんじゃないかなと思っていて、患者さんの一般の人がほしい情報と医療機関の忙しい先生方とか看護師さんとか、がん相談支援センターのソーシャルワーカーの方がほしい情報と、あと企業が欲しいと、三つぐらいに分けて、そこからちょっとコンテンツづくりをやったほうが非常にいいんじゃないかなというのが一つ。

あと二つ目は、やっぱりがんといっても全然がん種別で全然違うので、そろそろせめて5大がんといいますか、乳がん、胃がん、大腸がんとか、そういうふうにごん種別に分けていってもいいんじゃないかなと思っていて。

やっぱり漠然と「がんって何？」とか、あとはがん情報サービスもありますけれども、もうちょっと患者さんとか企業の方とかが、がんで治療して仕事を両立する中で、こういうふうな感じの治療になっていくなというイメージが持てるのが一番大事だと思うので。

そういう意味では、まず、がん種別にして、以前、私、厚労省の研究班だったので、がん治療カレンダーというのをつくったんですけど、ああいうものをイメージとしてやると非常に分かりやすいんじゃないかなと思っていて、がん情報サービスはありますけど言葉がわーっと書いてあって、もう少し具体的にどういうふうにごん療法が始まっていくとか、そういったことをもう少しできる範囲内で漠然と図にしたものとか、そういったものができるといいのかなというのが二つ目にあります。

あと、ちょっと余談ですけど、Y o u T u b e もいいと思うんですけど、やっぱりY o u T u b e は結構長尺で説明するのはいいと思うんですけど、先ほどのコマースミライミライ、何かショートミライミライな形でがんのことについてはがん相談支援センターへ、ミライミライ、もっと短い、そういったものが出るともっといいんじゃないかなと思いました。

以上でございます。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

先ほどおっしゃった、遠藤委員、治療カレンダーとおっしゃいましたね。どんなものなんでしょうか。

○遠藤委員 これは共有できますかね。

こういったものですね。見えますかね。

○内田ワーキンググループ長 はい。

○遠藤委員 これは以前、厚労省の研究班で私がつくったんですけど、こういうふうに一般でどんな感じに治療が進んでいくかというのを、やっぱり言葉だとイメージがつきづらいので、もうイメージでこんな感じですよという、見てぱっと分かるようなものを、これを例えば乳がんだけじゃなくて、大腸がんとか、そういうのをつくっていくと非常にいいんじゃないかなと思っていました。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

○遠藤委員 すみません。失礼します。

○内田ワーキンググループ長 どんどんアイデアが出てきております。

大賀委員、お願いします。

○大賀委員 アフラックの大賀でございます。

私からは、このトップページの画像のところの上から三つ目でがん治療について知りたいというところがあると思うんですけども、この中には若い世代のがんについてというふうにあります、これは治療についての内容なのか、それとも一番上のがんについての内容に近いものなのか、どのように整理をされてここになったのかみたいところがちょっと気になりましたので、教えていただけるとうれしいです。

○内田ワーキンググループ長 事務局のほうはいかがでしょう。

○田村医療連携・歯科担当課長 ここに関しては治療以外の部分も入ってはいます。長期フォローアップの件であったりとか、単純に治療のみではなく、AYA世代なり小児がんに関する包括的な部分で全体的な内容がここに入ってくるイメージではございます。

○大賀委員 ありがとうございます。

○内田ワーキンググループ長 よろしいでしょうか。どうぞ。

○大賀委員 構造の中で、もしかしたら少しだけまたがっているような部分もあるんだというふうには理解したんですけども、ご覧になる方がここで分かりやすいのであればいいかなとは思うんですけども、もしかしたらもうちょっと一番目に近いところなのかもしれないというふうに思ったりしたので、ちょっとそこは、もしあればご検討いただければと思います。

○内田ワーキンググループ長 小児がんあるいはAYA世代の、そういう年代特有のいろんな問題とか、そういうのが載っているということなんですかね、ここは。

○田村医療連携・歯科担当課長 そうですね。そういうところも含んで載せてございます。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

多数ご意見が出まして、時間を超過してしまっております。

すみません。新明委員、手挙げボタンが押してあります。ご意見ではないですね。ありがとうございます。

じゃあ、事務局はしっかりこれを記憶にとどめていただいて、よりよいホームページ

をつくっていただけたらと思います。

それでは、次の議題にお進みしましょうかね。よろしいですかね。

次は、事務局から最後の議題で、令和7年度の事業等についてのご説明をお願いします。

○田村医療連携・歯科担当課長 説明します。

一応先ほど、遠藤委員の意見に対しましてですけれども、先ほどのトップページで言いますと、ちょっと補足させていただければと思いますが。

当初の案では、患者・家族向け、あとは医療従事者向け、そういった企業向けのトップページを分けるような案も考えてはいたんですけれども、どちらかといいますと患者・家族向けにある程度特化するとか、そちらを前面に出したいというところで、医療従事者向けの方に関しましては、このポータルサイトの一番上のところに医療従事者の方へというところのボタンがありまして、そちらから入っていただくと医療従事者向けの内容が見られるような形に変えさせていただいているところもございます。

また、伊藤委員からのご意見であった治療の部分というか、病院を探すというところに関しまして、最初はこちらのほうで青いイメージのトップページのイメージを以前出していたかと思うんですけれども、そちらのときですと「病院を探す」を一番上に持ってきていたんですけれども、がんとの共生部会とか、ほかの部会の委員の方のご意見でいいますと、病院検索のためのサイトに思われてしまうというようなところで、それだけでなく、ほかの総合的な部分での情報も載せているんだというのが分かるような形がいいというようなご意見もございまして、あくまで病院検索サイトではなく、ポータルサイトで総合的なサイトというところがあって、病院を探すというところをあまり前面に出さないというような形の構成にしている経緯はございます。今いただいた意見に対する補足ということで、説明させていただければと思います。

では、7年度事業について、引き続きご説明させていただければと思います。

資料がありますけれども、まず、がん診断前後の退職防止のための動画の広告配信についてですけれども、先ほどご覧いただいた動画につきまして、来年度もY o u T u b eにて広告配信を予定してございます。

15秒と60秒のどちらか、あるいは両方使用するか、もしくはスキップができるかどうかとか、あとターゲティング広告の方法などにつきましては、今年度の実績による効果検証を踏まえて検討する予定としてございます。また、区市町村及びがん診療連携拠点病院等へは、引き続き庁舎内や院内で流してもらえるよう働きかけを行う予定でございます。

次に、治療と仕事の両立セミナーにつきましては、来年度も2回の開催を予定してございます。

今回、初めて集合形式でも開催を行いましたけれども、事業としましてはオンライン

のほうが多数であったということがありますので、来年度はオンラインのみで定員を拡大して行うことも検討してございます。

また、個別相談会につきましては集合形式での需要がちょっと少なかったということから、せっかく実施しても相談者が少ないという結果になってしまいましたので、企業への個別的な支援について何か別の形でできないか検討が必要かなというふうに考えてございます。

プログラムにつきましても、令和4年度から基本的には同様の内容で産業医による両立支援の意義等についてのお話、社会保険労務士による具体的な取組内容についてのお話のほか、企業の取組事例、また、がん経験者の体験談、出演者にパネルディスカッションという構成でございまして、両立支援にこれから取り組む企業向けの内容となっております。

こちらについて、来年度は何か別のテーマにしたほうがよかったりとか、またプログラムの構成を変えるといったことなど、より幅広い企業に対して、両立支援の理解促進を図るために何かご意見があれば伺いたいと考えてございます。

もちろん現状としまして、今回もオンラインに関しましては、定員を超える申込みがございまして、参加をお断りしているような状況もございましたので、引き続き同じ内容で開催してもよいかとも考えてございますので、そういったご意見でも構いません。

また、がん対策推進計画第三次改定に記載している内容でございますけれども、病気の家族を持つ従業員のための介護休暇制度等について、導入促進を図ることを掲げておりまして、それにつきましても、本セミナーを活用して周知できればよいかとも考えてございます。こちらにつきましても、ご意見がございましたらよろしくお願いいたします。

続きまして、大学提案のがん治療と就労の両立に向けた支援事業についてですけれども、今年度に引き続いての内容になりますけれども、医療技術の開発については、最終的には研究成果についてまとめた資料を作成し、都内がん診療連携拠点病院等へ周知することを考えてございます。

また、患者が求める支援や課題抽出に関しましては、頭頸部がん患者やその家族向けの資料の作成、普及を考えてございます。また、それぞれの成果普及のためのシンポジウムの開催も考えてございます。

次のスライドにお進みください。

令和7年度以降の取組ということでして、患者・家族と職場のコミュニケーションを促進・支援するための資料についてご説明いたします。こちらは、7年度の実施ということではなくて、来年度、具体的な検討を行いまして、必要に応じて予算を確保した上で、8年度に取り組みたいという内容となっております。こちらの資料作成につきましては、がん対策推進計画においても取組の方向性として挙げている内容になります。

背景としましては、職場において従業員である患者からどのような配慮を求められて

いるか分からず、対応に苦慮しているというケースがございまして、また、患者からどのように職場に伝えればよいか分からないという声が多く聞かれてございます。

また、患者だけではなく、その家族が患者の看護・介護と仕事の両立を図る場合におきましても、同様のケースが発生している状況がございまして。これらの背景から、患者及び家族と職場のコミュニケーションを促進・支援し、職場において患者及び家族が適切な配慮・支援を受けるための患者・家族向けの資料を作成することを考えてございます。

現段階で想定している内容としましては、がんの診断後、休職前、休職中、復帰後、それぞれの状況に応じて、どのタイミングで具体的にどのような内容を職場に伝えればよいかという職場とのコミュニケーションの測り方について、また、職場に伝えるに当たっての医療機関からの情報収集の方法や職場に配慮してほしい事項等の具体的な伝え方などを考えてございます。

参考資料としまして、厚生労働省の「治療と仕事の両立支援ナビ」、患者及び事業者向けの資料である「治療と仕事の両立支援ハンドブック」、患者が医療機関に職場での配慮事項を書いてもらうための「両立支援カード」、産業医科大学の江口先生の研究班による「治療サポ」というサイトで、こちらは職場への具体的な配慮を伝えるための患者向けのツールになります。

まずは、作成に当たりまして、内容としては今ご説明したものでよいのか、さらに何か追加したほうがよい内容などがあれば、ご意見をいただきたいと考えてございます。また、参考資料にも挙げさせていただきましたが、これら以外に何か参考になる資料がご存じでしたら教えていただければと思います。

事務局では、これらの内容を包括した資料というのではないと考えておりますが、もし既存の資料で類似のものがあるということであれば、それを周知するということが十分な場合もあるかと思っておりますので、必要性も含めてご意見いただけますと幸いです。また、今ご説明した内容以外にも、職場向けあるいは患者向けにこんな資料があるというのではないかなど、ご意見があれば伺いたいと思います。

事務局からの説明は以上になります。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

事務局より来年度実施の事業と来年度以降に取組予定の新たな資料について説明がありました。

この内容について、ご意見、ご質問があればということです。

来年度セミナーの内容について、特に患者・家族向けの新たな資料について、ぜひご意見をいただければということです。

竹井委員、お願いします。

○竹井委員 聖路加病院の竹井です。

企業向けのセミナーが非常に人気だということだったんですが、個別相談が少ないと

いうふうなことに關してですけれども、それぞれ企業で悩んでいるケースというのは多いとは思っていて、前もってこういうことで実は悩んでいましたというようなご意見を申込みのQRのときに個別に書けるようなところをつくったらいかがかなというふうに思います。

私、日頃のそういう医療の場面でも、そういうケースカンファレンスというのは非常に皆さん似たようなことで悩まれていることも多く、そういったところで学ぶ機会もあるので、もし可能であればセミナーの中で前もって提示された症例に対して、専門家の方々からこんな対応はどうかといった具体的な案なども取り上げるようなことがあってもいいんじゃないかなというふうに思った次第です。

○内田ワーキンググループ長 貴重なご意見ありがとうございました。

今回は、そういった試みをされてはいなかったということでよろしいですか。

○田村医療連携・歯科担当課長 そうですね。今回、そういったところまでは事前に聞いてはございませんでしたので、ぜひ検討させていただければと思います。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

そのほかございませんでしょうか。

どうぞ、大賀委員、お願いします。

○大賀委員 アフラックの大賀でございます。

患者と家族の職場のコミュニケーションを促進するための資材というところなんですけれども、患者さんが従業員の場合と家族の方が従業員の場合は大分悩みの両立支援においては状況が違うかなというふうに思っております。と申しますのは、昨年、弊社でもがん患者を抱える家族が社員の場合というところで、その方々を集めてというか、そういう方々向けのセミナーみたいところで事前にアンケートを取ったりしながら、両立に対して何かお悩みがないですかみたいなことだったりとか、あとは、まだ経験はないけれども、これから不安に思っていることとか、アンケートを採って研修をやったんですけれども、意外と両立というところにおいては、ほかの子育ての方と同じぐらいな感じでいらっしゃるようなところが多かったんですけれども、終末期になってくると、どちらかという介護と同じようなところになってくるので、そこで両立が難しくなってきたケースはあるかもしれないかなと思ったので、何かその辺りが大分患者さんがご本人と家族の場合と違うかなと思っているので、どのような形で進めていかれるようなイメージなのかというところと、もしあれば教えていただきたいと思っております。

○内田ワーキンググループ長 重要なポイントありがとうございました。

いかがでしょうか。

○田村医療連携・歯科担当課長 そこまで具体的なイメージを持ってやっているところではなく、先ほど言いましたように、7年度ではなくて8年度にできればというふうな形で考えていたので、ぜひこの場でこういったいろんな意見をいただいて、それをもとに

また改めて考えていければと思います。非常にいいアドバイスをいただいたかと思っておりますので、こちらとしても参考にさせていただいた上で、イメージを固めていければと思っております。

○大賀委員 大賀でございます。ありがとうございます。

私どもがやったときに、想定と全然違う実態が見えてきたので、何かいろいろな事例を聞いていかれるといいかなと思います。ありがとうございます。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

そのほかよろしいでしょうか。

私から、さっきの個別相談会ですけど、これはオンラインで個別相談会というのはやっぱりちょっと難しいんですかね、セキュリティーの問題とか。

うちは、実は就労支援の相談会はウェブでやっているんですけども、多分なかなか手を挙げてくれる人があまりいないですね。結局やっぱり現地で話し合う形になりますので、なかなか難しいんでしょうかね。

○田村医療連携・歯科担当課長 そうですね。セミナーと一緒にやるとなるとなかなか難しいのかなと思います。やはりZoomなどだとブレイクアウトルームとかできるかとは思いますが、なかなかそういうところまで大きなセミナーだと難しいと思うので、相談会はまた別でそういったウェブで企画するというのなら可能な部分があるかと思うんですけども、そこはちょっと検討させていただければと思います。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

ちょっとすみません。時間を超過しておりますけれども、皆さん、言い残したこととか、ないでしょうか。

○田村医療連携・歯科担当課長 もし染谷先生から今の部分でご意見いただければと思います。相談会の当日に参加いただいていたので。

○内田ワーキンググループ長 染谷委員、お願いします。

○染谷委員 東京都社労士会の染谷です。ご依頼のほうをいただき、ありがとうございます。

そうですね、相談会に関して、お話し伺っていて、現場におりましてお声がけさせていただいていたときに、まだ実際に両立支援が必要になっていない方も結構参加されていたというのが現状ではないかと感じていました。また、知り合いなのでオンラインセミナーを受講された方は、やはりこれから支援を開始しようと思った方が多かったような気はしています。既に困っている方なのか、これから取り組もうと思っている方なのかどうかを受講申込み時に確認することはできるのでしょうか。もし困っている方に関しては、積極的にご相談も可能である旨の案内周知ができれば、相談件数も増加するのではないかと感じております。

また、オンラインでの相談のほうは、使用するツールによっては相談しやすいのではないかと考えています。特に企業様に関しましては、外部の人に相談をすることのハー

ドルは非常に高いと思います。特にリアルで初めて会った方となりますと。オンラインであれば、相談へのハードルは持たれないような気がします。オンライン相談が可能なツールがあれば、そちらを利用するというのも良いのではないのでしょうか。時間を区切って予約を受け付けていただければ、私どももその時間帯に待機させていただき、相談対応が可能ではないかなと思っております。

○内田ワーキンググループ長 大変貴重なご意見でした。ありがとうございます。

事務局もよろしいでしょうか。

○田村医療連携・歯科担当課長 ありがとうございます。

○内田ワーキンググループ長 伊藤委員から手が挙がっております。お願いします。

○伊藤委員 すみません。

患者家族と職場のコミュニケーション促進・支援するための資料というのに関する部分なんですけれども、資料ピックアップだったりとか情報収集の中で両立支援コーディネーターの主催しているところへのオープンにはなっていないんですけれども、資料提供のお願いだったりとか協力のお願いは、今までは何か動きとしてはなされていましてでしょうかね。

○田村医療連携・歯科担当課長 両立支援コーディネーターに関しては、こちらとしては動きはない状況でございます。

○伊藤委員 仕事柄、私は産業領域での心理士をしているんですけれども、やっぱり同僚が両立支援コーディネーターの資格を取っている人間が何人かいます。現実的にどういう資料を使ってどういうふうに企業とドクターと従業員をつないでいくかということについては、比較的知見が十分ではないかもしれないんですけれども、集まっているということは勉強しにいった者から聞いているので、オープンにはなっていませんが、もし可能であれば、そういうところでちょっと情報収集してみてもいいかなと思いつけ加えさせていただきました。

○内田ワーキンググループ長 ありがとうございます。

確かにそういう職種もありますものね、職種といいますか、資格はありますものね。ありがとうございます。

そのほか、ご意見よろしいでしょうか。

染谷委員、お願いします。

○染谷委員 社労士会の染谷です。

がんになった従業員の治療と仕事の両立支援セミナーのところの※印の二つ目のところですが、病気の家族を持つ従業員のための介護休暇制度などについても導入の促進を図ると記載されていますが、こちらは法定の休暇以外の家族の介護のための休暇制度の導入促進というイメージなのではないでしょうか。

○田村医療連携・歯科担当課長 そうですね。ここに関しては取り組んでいないところに関して導入を図るというところで、今、考えてはございます。

○染谷委員 ありがとうございます。

○内田ワーキンググループ長 では、よろしいでしょうか。

そのほか、全体を通してでも結構です。ご意見ございませんか。

ないようですので、事務局のほうにお返しいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 本日は、非常に活発なご議論を頂戴しまして、誠にありがとうございます。

本日の議題について、さらにご意見等ある場合につきましては、今週の金曜日、2月7日までにメールで事務局までご連絡いただければ幸いです。

本会議終了後にメールでも併せてご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

今年度の就労支援ワーキンググループにつきましては、以上で終了となります。

また、議事の2でもお話させていただきましたけれども、今月中旬にがんポータルサイトの第2回ユーザーテストを行いますので、実施の際には、皆さんにもご連絡しますので、ぜひご協力いただければと思います。

事務局からは、以上になります。

○内田ワーキンググループ長 それでは、これにて第13回就労支援ワーキンググループを終了いたします。活発なご議論いただきまして、ありがとうございました。

これで終了します。ありがとうございます。

(午後 7時13分 閉会)